

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月8日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520660

研究課題名（和文） 近世・近代における大名・華族家資料群に関する基礎的研究-榊原家を中心に

研究課題名（英文） A Basic Study on the Historical Records of feudal lord and Nobility Families in the Early-Modern and Modern Eras : Mainly the *Sakakibara* Family

研究代表者

浅倉 有子 (ASAKURA YUKO)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：70167881

研究成果の概要（和文）：近世において越後村上、播磨姫路、越後高田などを領知し、明治維新後に子爵に叙せられた榊原家に伝来する資料群を対象に、とくに文書・蔵書の継承のされ方、近世から近代に至る変遷と整理の過程などを明らかにし、あわせて榊原家の史書編纂、他の大名・華族家との比較などの諸点について検討し、大名家・華族家を総体としてとらえるアーカイブズ論の方向性を提示した。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the transmitted historical records of the *Sakakibara* family, who governed *Echigo Murakami*, *Harima Himeji*, *Echigo Takada* and other areas, and was conferred Viscount after the Meiji Restoration. The study firstly clarified how the documents and books of the family were inherited by each generation, changed and classified in the early-modern and modern eras, secondly discussed how they were edited in comparison with those of other feudal lord and nobility families and, thirdly offered a way forward in grasping the overall nature of feudal lord and nobility families as a whole, namely the theory of archives.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,500,000	1,005,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史・伝来資料・榊原家

1. 研究開始当初の背景

近年の近世史研究の顕著な動向として、文書の内容からのみ歴史を叙述するのではなく、文書が発生し、授受され、保管される意味や、保管の形態、収蔵庫の問題などをあわせて検討することで、文書が伝来する意義や伝来の秩序を問う研究があげられる。本研究課題の研究代表者・研究分担者は、それぞれ、首都大学所蔵の「水野家文書」（幕府老中を勤めた水野忠邦家の文書）、「旧丹鶴城蔵書

幕府書類」（紀州藩付家老水野家が収集した幕府関係史料）、米沢市上杉博物館所蔵の国宝「上杉家文書」等を対象に、文書群の成立と収集の意図、現用時の文書秩序の復元、伝来のされ方と秩序の変更、文書群の性格と機能の検討、各文書の史料的な性格の解明などを行ってきた。

一方、本研究課題の主対象である榊原家資料は、康政を藩祖とする大名榊原家に伝来した「家資料」と藩政史料の2群から成る資料

群である。前者の「家資料」は、徳川林政史研究所と徳川美術館がほぼ半数ずつ管理していたが、2004年に至り、旧高田藩和親会が借用していた資料群とともに和親会が一括管理することになり、その後上越市立総合博物館に寄託された。この資料群は、近世のみではなく近代華族家の文書、道具類、蔵書等を含むものであるが、従来の研究では、ほとんど利用されてこなかった。この資料群の全容は、2009年3月に『高田藩榊原家史料目録・研究』（上越市立総合博物館発行、以下この目録に記載されている史料を「高田藩榊原家史料」と表記する）が刊行されたことで、初めて把握することが可能となった。本研究代表者・研究分担者は、いずれもこの刊行に関わり、同史料を活用した解説論文を執筆した。

また、藩政史料としての榊原家資料は、基本的に上越市立高田図書館に所蔵されている。ただし、「家資料」と藩政史料は、厳密に弁別されて収蔵されたのではなく、一連の史料が、両機関に分かれて収蔵されている事例も確認された。

他方、3代当主榊原忠次により編纂された、3代将軍徳川家光までの徳川家の歴史を記した史書「御当家紀年録」の清書本については、研究分担者により検討されてきた。「高田藩榊原家史料」の調査によって、忠次自身が朱字を入れた「御当家紀年録」の草稿本が確認され、清書本との比較・検討が必要な課題として浮上した。

本研究課題は、上記の成果の上に構想された。

2. 研究の目的

本研究は、榊原家を中心に、大名家・華族家に伝来する資料群（文書、蔵書、道具類等）を分析対象として、伝来のされ方、近世から近代に至る改変と整理の過程、資料群と史書編纂、家意識などとの関連、他の大名・華族家との比較・検討、などの諸点を通して、大名家・華族家資料を総体としてとらえるアーカイブズ論の構築をめざすものであり、歴史学研究・アーカイブズ学研究に対して新たな方向性を示すことを目的とする。

あわせて、「高田藩榊原家史料」所収の個別史料の分析により、幕政史、藩政史、家族史、女性史、文化史、近代政治史などに新たな論点を提示することを目的とする。

具体的な研究の目的として、A 資料群の成立過程と近代に至る改変の解明、B 史書編纂と資料群との有機的な関連の解明、C 「高田藩榊原家史料」に収められている個別史料の分析、D 他大名・華族家の事例との比較、の4点の課題の解明を目的として設定する。

3. 研究の方法

研究目的Aの解明のため、「高田藩榊原家史料」や上越市立高田図書館所蔵の榊原家史料などから、文書・蔵書、道具類の目録、またそれらに関する記録を渉猟し、資料群の成立、伝来のされ方、改変の過程などを解明する。あわせて、櫃類や保管箱の書込み、付箋、メモ類などを調査する。

研究目的Bについては、「高田藩榊原家史料」に収蔵されている「御当家紀年録」草稿本をデジタル資料化し、清書本と詳細に比較・検討する。また、他の編纂物についても、伝来資料との関連を検討する。

研究目的Cは、研究代表者・研究分担者それぞれの関心に基づいて、研究テーマを設定し、主に「高田藩榊原家史料」に収蔵されている新史料を用いて研究を行う。

研究目的Dについては、新発田藩主溝口家など、他の大名・華族家文書所収の蔵書目録・文書目録などとの比較・検討を行う。

4. 研究成果

研究目的A「資料群の成立過程と近代に至る改変の解明」については、顕著な成果を得ることができた。榊原家史料中の近世・近代の蔵書と個別の文書・典籍名の索引を付した資料集『高田藩榊原家書目史料集成』全4巻（ゆまに書房、2011年）を刊行できたからである。調査の結果、蔵書目録は、元禄12年（1699）を最古として、村上藩主・姫路藩主・高田藩主時代の目録7点を確認しえた。蔵書目録の相互の関係の分析と、管理担当の書物方の役務に関する史料の分析によって、目録自体の性格の相違、蔵書の集積の過程を把握することができた。あわせて、保管場所による典籍の性格の相違、藩主お手元の蔵書類の管理、江戸から国元への典籍の移動などの諸点を明らかにすることができた。蔵書は、基本的に記号を付した長持類を用いた管理・保管がなされ、江戸藩邸と国元、藩主お手元で別個に台帳が作成され管理されていた。国元の蔵書については、当初収蔵庫ごとに異なる管理がなされていたが、徐々に統合され、19世紀初めの高田城の火災後、蔵書点検の意味合いを含み、複数の目録を統合した目録が作成され、一本化した管理が行われたことがわかった。

文書類については、近世の文書目録に相当する「入記」等は、ごく限定的なもの以外は確認できなかったが、近代における文書・蔵書類の目録13点を確認することができた。これらの分析から、蔵書類については、3代藩主榊原忠次収集の典籍類のうち、和歌集以外の和書と漢籍が、昭和初年に榊原子爵家から他機関へ譲渡され、和歌集を手元に残すという選別がなされ、これが上越市立総合博物館寄託の蔵書類の現状と一致することなど、蔵書類の移動と管理の変化について確認す

ることができた。また、子爵家で所蔵されていた地図類が、譲渡先は不明ながら、昭和初年以降、子爵家の所蔵を離れたことが判明した。

他方、文書類については、廃藩置県後の明治9年(1876)に創建された榊神社の宝蔵に収蔵され、長持による管理・保管が行われたが、明治後半から昭和初年の間に、重要と目された文書類が選別され、東京の子爵家へ移管された。この移管された文書群が、現在上越市立総合博物館に寄託された文書群を構成していることが検証できた。榊神社には、旧家臣団からも文書類が献納されていたが、榊原家由来の文書とともに、その後複数時に渡って榊神社三百年祭記念立高田図書館(上越市立高田図書館の前身)・高田図書館に移管されたことが、個別の文書の分析から明らかになった。

藩校修道館の蔵書は、複数の目録の検討から、3代忠次の所蔵本を含む、本来修道館が所蔵していた典籍に、旧家臣団寄贈の典籍を加えた全点が戦前に高田図書館に寄贈され、その後地図類が分離されて同館所蔵の榊原家史料に組み込まれるなど、現状までの継承のされ方を確認しえた。

以上、研究目的Aについては、近世の蔵書、近代の文書・蔵書の構成、管理・保管とその変化、現在までの継承について、個別の文書・典籍のレベルで検証することができた。

なお、榊原家以外の諸家に伝来する「榊原家所蔵文書」と題された資料群の中世～近世初期の文書と、「高田藩榊原家史料」との比較・検討を行った結果、既に近世後期に榊原家の所蔵を離れた重書があったことが判明した。この点は、榊原家資料の伝来のされ方に関わる重要な点であるので、今後の課題として検討を続けていきたい。あわせて、榊原家の所蔵を離れた資料の確認調査を、姫路市立城郭研究室、愛知県西尾市の岩瀬文庫で行い、写真データとして収集した

研究目的B「史書編纂と資料群との有機的な関連の解明」については、「御当家紀年録」、「御系譜」の二つの編纂史料について検討することができた。前者については、榊原家家蔵本など7点の「御当家紀年録」の字句や体裁、保存箱や封印史料を詳細に比較・検討することによって、「御当家紀年録」の正本を特定し、あわせて諸本の成立と相互の関係を時系列で把握することができた。

後者は、榊原家研究の基礎的な史料で複数の写本があるが、成立の経緯も不明であり、編者についても十分に検討されてこなかったものである。検討の結果、「御系譜」は、小姓として藩主の側近く仕えた編者竹尾住武が、文庫への出入りを許され、榊原家伝来の記録等を活用して私的に編纂したものが、追って藩の史書として公認され、多くの写本

が作成された経緯が明らかになった。

研究目的C『「高田藩榊原家史料」に収められている個別史料の分析』については、中世から近世初頭の重書を用いた政治史・女性史の研究、榊原家歴代当主の遺書を対象とした政治史、及び大名家の家意識に関わる研究、戊辰戦争時の高田藩の対応に関する研究など、新出の史料を分析した複数の研究を発表することができた。

研究目的D「他大名・華族家の事例との比較」については、近世において同じ越後で所領を有し、維新後に子爵に任じられるという榊原家と共通する性格を有する溝口家について成果があった。新発田市立図書館等において、複数の近世・近代の文書・蔵書目録を確認し、目録相互の関係について分析した。溝口家でも、榊原家と同様に、記号を付した長持に収蔵する文書・蔵書管理が行われていた。廃藩置県後、旧藩蔵書や藩政史料は、移譲、分蔵、または散逸し、藩主家の蔵書の多くは売却・譲渡されたが、蔵書・藩政史料ともに、昭和4年(1929)設立の新発田町立図書館(新発田市立図書館の前身)へ最終的に寄贈・継承されていく過程を見通すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

- ① 松尾美恵子、富田信高の改易と武家諸法度、駒澤大学大学院史学論集、査読無、43号、2013、1-15
- ② 福田千鶴、榊原家所蔵として伝わる中世～近世初期文書、近世・近代における大名・華族家資料群に関する基礎的研究-榊原家を中心に一研究成果報告書、査読無、2013、13-21
- ③ 藤實久美子、大名榊原家の秘本「御当家紀年録」の草稿と諸本、近世・近代における大名・華族家資料群に関する基礎的研究-榊原家を中心に一研究成果報告書、査読無、2013、1-12
- ④ 荒川将、北陸道新政府軍の進発と高田藩の対応-榊原家史料「諸記録留」の紹介をかねて一、近世・近代における大名・華族家資料群に関する基礎的研究-榊原家を中心に一研究成果報告書、査読無、2013、81-86
- ⑤ 岩本篤志、新発田藩蔵書目録続考、資料学研究、査読無、9号、2012、23-33
- ⑥ 松尾美恵子、家光政権期江戸城と江戸の防衛-城門警備と消防制度の成立、東京大学史料編纂所研究紀要、査読有、22号、2012、236-248
- ⑦ 松尾美恵子、榊原政邦遺書、古文書を読

- む、査読無、2011、23-30
- ⑧ 福田千鶴、加藤清正の娘古屋と榊原平十郎勝政、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、46号、2010、13-30

〔学会発表〕(計1件)

- ① 松尾美恵子、富田信高の改易と武家諸法度、駒澤大学大学院史学会、2012年11月24日、駒澤大学

〔図書〕(計1件)

- ① 朝倉治彦監修、浅倉有子・岩本篤志編、ゆまに書房、高田藩榊原家書目資料集成、全4巻、2011、1、973
解説論文：岩本篤志、高田藩・榊原家の近世の蔵書目録とその関係史料について、第3巻、347-361
浅倉有子、高田藩および榊原家に関する近代における書誌目録、第3巻、363-375
花岡公貴、榊原家「御系譜」の成立と編者竹尾住武について、第4巻、781-799

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅倉 有子 (ASAKURA YUKO)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号：70167881

(2) 研究分担者

松尾 美恵子 (MITSUO MIEKO)
学習院女子大学・国際文化交流学部・教授
研究者番号：20072423

福田 千鶴 (FUKUDA CHIZURU)
九州産業大学・国際文化学部・教授
研究者番号：10260001

藤實 久美子 (FUJIZANE KUMIKO)
ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授
研究者番号：90337907

畔上 直樹 (AZEGAMI NAOKI)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号：20315740

岩本 篤志 (IWAMOTO ATSUSHI)
立正大学・文学部・講師
研究者番号：80324002

(3) 研究協力者

花岡 公貴 (HANAOKA KOKI)
上越市立総合博物館・係長・学芸員
荒川 将 (ARAKAWA MASASHI)
上越市立総合博物館・学芸員